

地球のステージ益田

2012

つながろう! 益田と世界、そして東北
考えよう! 今、私たちにできること



とき 平成24年 **12月8日** 土

開場12:30 開演13:00 終演17:00

入場料 / 大人 **1,000円** (前売800円) 小学生以下 **無料**
 中高生 **500円** (前売400円)

前売券 / グラントワまたは下記お問い合わせ先まで

主催 / 地球のステージ益田実行委員会
 共催 / 島根県青年海外協力協会
 後援 / 島根県教育委員会、益田市教育委員会
 協力 / 国際ソロプチミスト益田
 お問い合わせ / TEL **050-3317-4480**
 Web情報 / <http://earthstage.blog62.fc2.com/>



ところ **しまね芸術劇場**
グラントワ 小ホール

※託児サービス: 1週間前までにお問い合わせ下さい。



地球のステージ益田情報 検索



津波被災直後の宮城県名取市閉上

プログラム

13時~ **第1部**

協力隊報告&民族音楽ライブ

前半は東日本大震災被災地に入って活動した青年海外協力隊OBIによる報告。後半は島根で活動するグループによるアフリカ音楽と南米音楽のミニライブ。



14時~ **第2部**

地球のステージ5+震災復興篇

講師は世界の紛争地や東日本大震災被災地で活動する桑山紀彦医師。国際協力篇、ガザ危機篇2などに加え、復興へ歩き始めた人々の姿を伝える震災復興篇による映像と音楽と語りのステージです。



16時~ **第3部**

地球のステージ広場

参加者、出演者、みんなが集って、世界のお茶を飲みながら益田、東北、世界のことを語り合しましょう!



第1部

青年海外協力隊活動報告 震災特別篇

細川光宜 (ほそかわみつぎ) バブア・ニューギニア派遣 広島県出身

東日本大震災後の6月から気仙沼の大島に入り、中国・四国地方から集まった約20名の協力隊OBのボランティアと共に支援活動を続けた。津波で養殖施設を失った漁師や仮設住宅に暮らす地元住民と「おバカ隊」を結成。精力的な復興活動を行った。



民族音楽

ADA (あだ) アフリカ音楽

西アフリカ一帯で演奏される太鼓のジェンベに魅せられた青年海外協力隊OBOGを中心に結成された。沖縄在住のギニア人ミュージシャンのユール・ジャバテさんより指導を受け、アフリカンリズムとダンスに励んでいる。



グルーポ・ビエントス フォルクローレ

ビエントスとは風またはフォルクローレで使う笛の総称。南米アンデス地方の音楽を楽しむため、津和野、益田、山口から6人が集まって14年以上の活動を継続中。リーダー柳井勇のオリジナル曲によるソロアルバム「音手紙」は大好評を得ている。



第2部

地球のステージ5 果てなき地平線+東日本大震災復興篇

タイトル	コメント	曲名
■オープニング	「地球のステージ」とともに全国をまわる様子、出会う人々の姿を綴りました。	応援花
■国際協力篇	青年海外協力隊員としてガーナの地を踏み、自分の人生をかけてガーナに関わり続けようとする菅野さんの生き方に焦点をあてます。ひとつの生き方を貫き通す信念に人間の底力を感じます。	白き村人
■パレスチナ ガザ危機篇2	2009年1月、イスラエル軍の空爆が続くガザ地区で、停戦までの5日間、医療支援活動にあたりました。「見て見ぬ振りほでできない」と出かけたラファの街で見たこと、感じたことをお伝えします。そしてその後のラファの状況やそこで出会った人々について語ります。	風のモハマッド
■ヒロシマ篇	被爆地ヒロシマ。証言者として当時のことを語り続ける人、若い世代へ語り継がれるヒロシマのお話。「人は忘れてしまう生き物だからこそ続けている平和教育。ある中学校の取組みもお届けします。	あかね雲
■故郷篇5 命をたどる旅路篇	遠い昔、開拓のため飛騨高山から北海道に渡ったと言われる桑山の祖先。ふと、北海道で目にした電話帳でみつけた「桑山」の名字からたどった命のつながりのお話。	この指とまれ
■東日本大震災復興篇	3月11日、自らの足元で起きた地震と津波による大災害。絶望の中から長い復興への道を懸命に歩き始めた人々のたくましい姿がありました。	君に逢いたい
■エンディング	メッセージが流れる。	まあるいひかり

※公演時間約110分です。※内容は変更になることがあります。

桑山紀彦 (くわやまのりひこ) 作詞・作曲・映像制作・ボーカル・ギター

東北国際クリニック(宮城県名取市)の医長をしている桑山紀彦氏が案内役です。彼はこれまで57カ国を歩き、紛争や災害の子どもたちの心のケア、心理社会的ケアに力を入れた活動を展開してきました。その活動の集大成としてつくられた映像と音楽のシンクロステージ「地球のステージ」は全国で展開されており、通算公演回数は約3,000回になります。

3月11日、自らも被災するが翌日から24時間体制の医療支援活動をつづけました。現在もステージ公演を実施しながら被災者の心のケアにあたっています。



パレスチナにて、モハマッドと

昨年の参加者アンケートより

- 特に東北の震災について、遠く離れた島根にいる私ですが復興のために、私たちにまだまだできることがあると知りました。消防士の歩さんのお話。正義感の強さに感動しました。「不幸」のままで終わるだけでなく、何か、その先の意味があることを教えてくれてありがとうございました。Keep on smiling! [高校生]
- とてもすてきな地球のステージでした。涙が止まりませんでした。誰かのことを思うこと、誰かとつながっていくこと、人と出会うこと、心を配ること、だから人は人と生きていけるんだなと感じました。とてもよい時間を過ごすことができました。本当にありがとうございました。[30代女性]
- はじめてだったけど、話がわかりました。いろんなところに行って、いろんな人の支えになるってすごいと思いました。これからもがんばってください!! [中学生]